平城遷都1300年祭メーン会場オープン

新大阪から臨時特急「まほろば」号運転
万葉まほろば線の万葉トレインも好調

「はじまりの奈良、めぐる感動」をテーマに展開される平城遷都1300年祭のメーンである平城宮跡会場がオープンした。

平城宮跡会場では日本が世界に誇る歴史文化遺産「平城宮跡」（特別史跡・世界遺産・国営歴史公園）を舞台に、半世紀にわたる「発掘と研究」「保存と復原」の成果を踏まえ、平城京の建設と国づくりにかけた人々の情熱と知恵に触れる特別な展示・催事を展開。また、本格的なフィールド・ミュージアムとしての魅力と価値を備えた特別な体験・楽習ツアーを提案する。メーンは復元された第一次大極殿。さらに最新技術で当時の平城京を分かりやすく紹介する平城京歴史館／遣唐使船復原展示はオープン以来とくに高い人気となっている。会場には、オープン後最初の日曜日には来場予想の3万人を超える約3万8千人が来場した。

第一次大極殿

第一次大極殿は朱雀門の真北約800mに復元。正面約44m、側面約20m、地面より高さ約27m。直径70cmの朱色の柱44本、屋根瓦約9万700枚を使った平城宮最大の宮殿であり、その建物は奈良時代の中頃に、一時都とした恭仁（くに）宮に移築され、山城国の国分寺金堂となった。当時は、天皇の即位式や外国使節との面会など、国のもっとも重要な儀式のために使われていた。見学の所要時間の目安は約30分。入場料金は無料。

朱雀門

朱雀門は、平城宮の正門。その前では外国使節の送迎を行ったり、大勢の人達が集まって歌垣などを行ったりし、正月には天皇がこの門まで出向き、新年のお祝いをした。

朝の開門、昼の衛士の交代、夕方の閉門時には衛士隊の再現が行われる。入場料金は無料。

平城京歴史館／遣唐使船復原展示

平城京歴史館／遣唐使船復原展示は、中国大陸、朝鮮半島との交流と、そこから発展した日本の国づくりや、東アジアにおける国際交流の重要性を見つめ直す契機となるエリアとして構成。混雑時には整理券が配付される。

展示内容はテーマ展示、遣唐使シアター、遣唐使船復原展示、平城京VR（ヴァーチャルリアリティ）シアターからなる。

人気となっている第一次大極殿

第一次大極殿の高御座（たかみくら）

テーマ展示は、中国大陸、朝鮮半島をはじめ大陸との交流により発展した我が国の国づくりの歴史や往時の文化・暮らしに焦点を当てた。

遣唐使シアターは、アニメーションなどを駆使して、遣唐使の歴史や渡航の様子をドラマチックに再現した。上映時間は1時間に6回上映で、約8分。最大収容人数は約70人（立見のみ）。

遣唐使船復原展示は、当時の国際交流の象徴的存在である遣唐使船を原寸大に復原。全長30mでマスト高は15m。進取の精神で渡航した先人たちの気概に触れることができる。

平城京VRシアターは、外国使節団が見た平城京をコンセプトに、往時の人々の暮らしを、発掘調査を行う研究者や当時の役人などになりきって楽しく学習することができる。

疑似発掘体験

平城宮跡で現在も行われ、歴史研究の為に重要な発掘調査。ここでは疑似的に作られた発掘現場で遺物（模造品）を探す体験を行える。また、発掘した遺物から奈良時代の人々の暮らしについてスタッフが楽しく解説してくれる。所要時間は30分。定員は、46人／回。料金は一般500円（400円）、高校・大学生250円（200円）、小・中学生200円（150円）。かっこ内は20名以上の団体料金。

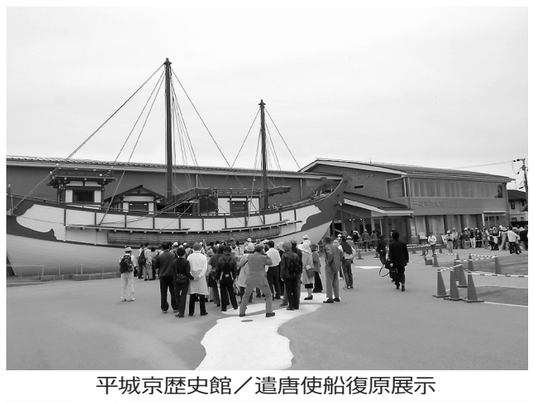
交流広場

交流広場のまほろばステージでは春季・夏季・秋季フェアの全日とフェア外の土日祝に様々な催しが行われている。

臨時特急「まほろば」号とせんとくん

臨時特急「まほろば」号でのせんとくんの挨拶

万葉トレイン


平城京歴史館／遣唐使船復原展示

平城京なりきり体験（発掘体験）

まほろばステージ

あをによしパレード

内は20名以上の団体料金。

平城京なりきり体験館

平城京なりきり体験館では、平城宮跡などで出土した遺物などからうかがい知ることができる往時の人々の暮らしを、発掘調査を行う研究者や当時の役人などになりきって楽しく学習することができる。

疑似発掘体験

平城宮跡で現在も行われ、歴史研究の為に重要な発掘調査。ここでは疑似的に作られた発掘現場で遺物（模造品）を探す体験を行える。また、発掘した遺物から奈良時代の人々の暮らしについてスタッフが楽しく解説してくれる。所要時間は30分。定員は、46人／回。料金は一般500円（400円）、高校・大学生250円（200円）、小・中学生200円（150円）。かっこ内は20名以上の団体料金。

交流広場

交流広場のまほろばステージでは春季・夏季・秋季フェアの全日とフェア外の土日祝に様々な催しが行われている。

臨時特急「まほろば」号

JR西日本では、キャンペーン期間中の土休日に、奈良への新幹線利用者を3月13日のダイヤ改正から「万葉まほろば線」と愛称名を設定。

キャンペーンに先立って、昨年11月からラッピングを施した万葉トレインを運行している。万葉トレインは4編成が登場した。外装デザインコンセプトは、日本最古の歌集として位置づけられる万葉集。第一編成「旅万葉」のラッピングは、全て万葉歌人の日本画で大家の作品で構成される。

登場する歌人は、藤原鎌足、柿本人麻呂、額田王、大伴家持、大伴旅人、山上憶良。内装デザインコンセプトは、「大和の山中への誘い」をテーマに、外装いっぱいに藤原京を中心とした360度に広がる大和の山々を描いた。万葉の時代から大和の山中に生息し、歌に詠まれた草花や鳥などのイラストを描き起した。

ドア上のポスターでは、外装に掲載された歌人と歌の解説を行い、万葉集をわかりやすく、親しみやすく紹介する。

駅の「万葉スタンプ」を集める「万葉まほろば線スタンプラリー」も実施されている。

デスティネーションキャンペーン期間中の特別きっぷ

東京・名古屋方面からは往復新幹線と自由周遊区間内のJR・近鉄・バスがセットの「奈良・大和路遊々きっぷ」が東京発着で大人1人2万7500円。山陽方面からは「奈良・大阪フリーきっぷ（JR・近鉄）」が広島市内発で普通車用大人1万8500円、グリーン車用が2万1500円。近郊区間からは往復JR乗車券と奈良県内のJR自由周遊区間がセットの「奈良万葉きっぷ」を発売する。三ノ宮発で1300円、当日限り有効。

デスティネーションキャンペーン

奈良県は4月1日から6月30日まで、奈良県内の観光事業者、JRグループと共同で「奈良デスティネーションキャンペーン」を展開している。テーマは「はじまりの奈良、めぐる感動」。平城宮跡会場とJR奈良駅からは無料のシャトルバスが運行されている。

臨時特急「まほろば」号

JR西日本では、キャンペーン期間中の土休日に、奈良への新幹線利用者は、「まほろば」号の利用区間に有効な普通乗車券や「ICOCA」などICカード乗車券のほか、企画きっぷの「奈良・大阪フリーきっぷ（JR・近鉄）」や「奈良万葉きっぷ」に加え、日帰り旅行商品「駅長おすすめ駅プラン「奈良散策」で利用できる。

利用期間は4月16日から6月27日の臨時特急「まほろば」号が運転される土休日。料金は、新大阪駅から王寺・法隆寺・奈良駅までが2名用が1000円、3名用は1500円。天王寺駅から王寺・法隆寺・奈良駅までは、2名用が800円、3名用は1200円。

万葉トレイン

JR西日本では、万葉集にゆかりの地が集まる桜井線の奈良駅と高田駅間を3月13日のダイヤ改正から「万葉まほろば線」と愛称名を設定。

キャンペーンに先立って、昨年11月からラッピングを施した万葉トレインを運行している。万葉トレインは4編成が登場した。外装デザインコンセプトは、日本最古の歌集として位置づけられる万葉集。第一編成「旅万葉」のラッピングは、全て万葉歌人の日本画で大家の作品で構成される。

登場する歌人は、藤原鎌足、柿本人麻呂、額田王、大伴家持、大伴旅人、山上憶良。内装デザインコンセプトは、「大和の山中への誘い」をテーマに、外装いっぱいに藤原京を中心とした360度に広がる大和の山々を描いた。万葉の時代から大和の山中に生息し、歌に詠まれた草花や鳥などのイラストを描き起した。

ドア上のポスターでは、外装に掲載された歌人と歌の解説を行い、万葉集をわかりやすく、親しみやすく紹介する。

駅の「万葉スタンプ」を集める「万葉まほろば線スタンプラリー」も実施されている。

デスティネーションキャンペーン期間中の特別きっぷ

東京・名古屋方面からは往復新幹線と自由周遊区間内のJR・近鉄・バスがセットの「奈良・大和路遊々きっぷ」が東京発着で大人1人2万7500円。山陽方面からは「奈良・大阪フリーきっぷ（JR・近鉄）」が広島市内発で普通車用大人1万8500円、グリーン車用が2万1500円。近郊区間からは往復JR乗車券と奈良県内のJR自由周遊区間がセットの「奈良万葉きっぷ」を発売する。三ノ宮発で1300円、当日限り有効。

天平時代の宮廷料理を再現した「天平の宴」

注目！ 宿泊施設情報
奈良パークホテル 宮廷料理「天平の宴」

白木づくりの専用会場「大宮の間」で
天平時代の料理と宴の雰囲気を楽しむ

奈良パークホテル（箸尾享嗣社長）は、平城遷都1300年祭で古都奈良が全国的に注目を集める中、1300年前の美食の世界を体感できる天平時代の宮廷料理「天平の宴」を再現。多くのマスコミで取り上げられている。

宮廷料理「天平の宴」は、白木づくりの専用会場の「大宮の間」で、当時の宴の雰囲気を楽しみながら食事をするというこだわり。宿泊客自らも古代衣装の羽織をまといながら、当時の宴の雰囲気を楽しむ。会場への案内や料理を運んでくれるのも古代衣装をまとった女性スタッフ。室内は、当時宴に使われていたとされる照明の「灯心台」にあかりが灯され、雅楽も流されるなど幻想的な天平時代の雰囲気を演出。

食事だけでなく、一品一品語り部による料理や歴史の解説を聞くこともでき、日本の食文化の原点に触れることができる。

天平時代、貴族の間ではいろいろな調味料が使われ食事を楽しんでいたことから、天平の宴でも、現代の味噌、醤油のルーツである古代調味料の「醤（ひしお）」で食べる料理が多い。醤は醤油もろ味を絞ったもの。他にも自然塩や玄米酢も用意される。

料理は約20種類で、食器には、須恵器や木椀を使用。新鮮な牛乳を煮詰めた古代のチーズと言われる「蘇（そ）」や鮭、鮫など魚の干物「楚割り（すわやり）」や肉料理は、鴨や猪を一度火を通したものを、醤（ひしお）につけてあぶり焼きにした脯宍（ほじし）など珍しい料理が並ぶ。料理の締めには、赤米にお湯を注いだ「湯漬け」とたくあんの元になったといわれる「須々保利漬け」が出される。

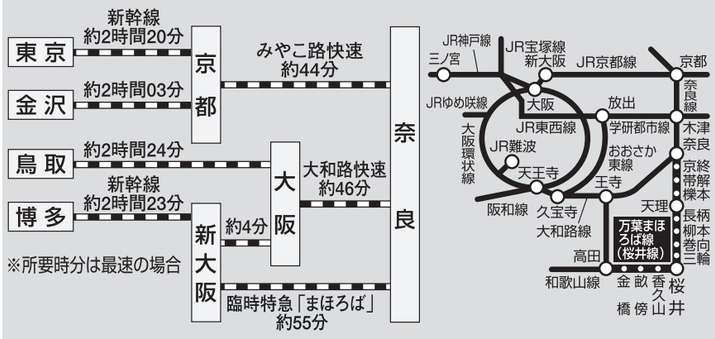
デザートは、木の実や柿などの木菓子。保存性を高めるため少し天日に干されている。和菓子のルーツとなっている中国から伝わった唐菓子も出される。

また、天然湧出の宝来温泉があり、御影石の浴槽をもつ内湯と庭園仕立ての露天風呂が、旅で疲れた身体を癒してくれる。

▽奈良パークホテルは、奈良県奈良市宝来4―18―1。☎0742・44・5255。http://www.kotonara.co.jp

奈良パークホテル

全国から奈良県へのJRでのアクセス



キャンペーンやきっぷ、列車などについては
JRおでかけネット
http://www.jr-odekake.net/